

第 21 回ケナフ等植物資源利用研究会と第 24 回特別講演会報告

高知大学 准教授 市浦 英明

平成 30 年 9 月 7 日に愛媛県紙パルプ工業会で行われた第 21 回ケナフ等植物資源利用研究会と第 24 回特別講演会について、紹介する。特別講演 2 件と研究発表 2 件の講演が行われた。本稿では、特別講演会について紹介したい。

特別講演では、愛媛県環境マイスターの保谷氏より、“虫の世界も大混乱ー地球温暖化を考えるー”というテーマで、福島相双復興推進機構の山岡氏より、“福島原子力事故被災地域における復興・営農再開に向けた取り組みについて”というテーマで講演があった。

保谷氏からは、地球温暖化をメインテーマとした内容であった。保谷氏は、高校教員を定年退職後、松山市に移住されて、現在環境マイスターとして活躍されている。24 時間、365 日、花や昆虫を観察されているようで、変化を敏感に感じ取ることができる方という印象を持った。このことから、現在の気候変化、地球温暖化についての講演は、大変興味深かった。特に、今年はセミの数が減っているとのことであった。今年は、全国で猛暑を記録し、異変が自然界で生じているのは、感じていたが、身近なセミにも異変があるのは、驚かされた。そう考えると、このセミの異変は、地球温暖化に端を発している可能性がある。また、近年のゲリラ豪雨、台風の巨大化なども増えており、地球環境の変化が生じている可能性も高いと実感を持った。保谷氏は、昆虫や花を通して、地球の変化を感じ取っており、私も今後は、周りの環境変化を意識していきたい。

山岡氏からは、現在の原発事故後の福島県の復興の現状についての内容であった。ご存じのように、平成 23 年 3 月 11 日に東日本大震災が発生し、それに伴う津波により、福島第一原子力発電所が全電源喪失に陥り、放射性物質が放出する事態となった。その結果、12 の市町村において避難指示が出され、住民は避難を行った。その後、帰還困



保谷 忠良 氏



山岡 一光 氏

難区域を除いて、避難指示区域はすべて解除された。しかしながら、住民の帰還はあまり進んでいないのが現状である。その解決のため、官民合同チームである福島相双復興推進機構が平成27年8月24日に創設された。主に、生活再建・地域再生を目的としている。具体的な内容は、被災事業のうち、5100者を訪問し、意見を聞き、それに基づき支援を行うことである。自立支援を可能にすることを目標としている。事業者の中でも農業事業者の被害は大きく、津波による被害だけでなく、風評被害による農産物価格の低下も生じた。そこで、営農再開や販路の確立などの取り組みを始めた。その中の一つに、南相馬市でのケナフの栽培を紹介された。ケナフは鳥獣被害が少ない作物であり、食用農作物だけでなく、食用ではない花卉や特用作物の一つとして、選ばれた。今年度は、約5haの作付けを行っている。今後は、用途開発だけでなく、販売先の確保も重要なテーマとなってくる。高知にいと福島の現状についての情報を得る機会が少ないことから、大変貴重な講演であった。

2つの講演のメインテーマである地球温暖化対策と福島復興について、ケナフ協議会でもこの難しいテーマに如何に貢献できるかを考える必要があるのではと感じた。

平成30年度総会・講演会終了報告



挨拶する鮫島一彦会長

ケナフ協議会 事務局
去る9月7日（金）に愛媛県四国中央市にあります愛媛県紙パルプ工業会館（ケナフ協議会事務局）におきまして、平成30年度の理事会・通常総会及び第21回ケナフ等植物資源利用研究会と第24回特別講演会が開催されました。理事会では11名（本人出席7名・委任状出席4名）の出席をいただき、総会提出諸議案をご審議いただきました。また、総会については委任状を含め、33名の出席のもと、下記議案について可決承認いただきました。

第1号議案 平成29年度事業報告並びに活動決算承認の件（原案承認）

第2号議案 平成30年度事業計画及び活動予算承認の件（原案承認）

総会終了後には、恒例のケナフ等植物資源利用研究会と特別講演会を開催し、研究発表2件と特別講演2件を、様々な方面からケナフ等植物資源を含めた環境に関するお話をいただきました。

展示コーナーでは、6件の発表をいただきました。



講演会場

講演会終了後の懇親会は、「養老乃瀧」にて、講演をいただきました先生方も参加していただき、様々な情報交換を行いました。

最後に、通常総会及び第21回ケナフ等植物資源利用研究会と第24回特別講演会開催にご協力いただきました関係者各位に、紙面をお借りして心よりお礼申し上げます。



展示発表



懇親会